

子どもたちのアイデア満載の 手作りトイレが完成!

埼玉県戸田市立 美女木小学校

「ち

「ちやい子は暗いと怖がるから、明るくしよう」「女子は個室が多いんだから、男子よりスペースを広くしてよ」

子どもたちのさまざまな意見が飛び交うのは美女木小学校で行われた「トイレ改修ワークショップ」。トイレ改修の際、児童・生徒はもちろん、PTAや地域住民の意見を反映させるケースが増えているが、美女木小学校ではそれを一歩進め、児童がイニシアチブをとるトイレ改修をおこなっている。

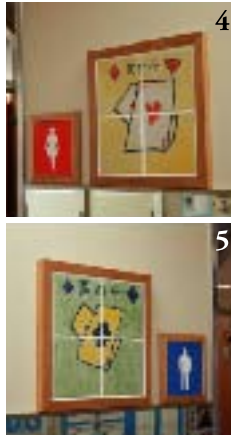
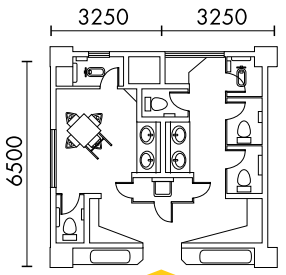
平成20年、1回目の改修で生まれ変わったトイレは写真の通り。贅沢にスペースを使ったベンチ、4つの小便器が向かい合い、尖塔を取り付けられた男子トイレ。大人が考える合理的な発想を超えたアイデアにあふれている。30人前後の希望者で構成されたワークショップでは、かなり奇想天外な案も出たが、養護教諭の市川先生が子どもたちのやる気を削がないよう巧みにコントロールした。

「ときには『自分だけのトイレですか?』『誰のためのトイレですか?』と問いかけることもありましたが、子どもたちの意見を最大限生かしたトイレになったと思います」

そのせいか、第1回のワークショップに参加した子どもたちの多くが2回目にも手をあげたという。そのワークショップで決まったトイレのデビューは平成22年度。次はどんなアイデアが盛り込まれているのだろう。



1. 去年参加した3年生の多くが4年生になった今年、2回目のワークショップにも参加した。
2. 男子トイレの中心にすえられた尖塔は映画「ハリ・ポッター」に登場する校舎をイメージしている。



3. つめれば10人は座れる大きなベンチが入り口付近に2カ所も設置されている。
4.5. ワークショップの最後に全員が描いた「サイン」。思い思いのアイデアが「自分たちのトイレ」という意識を強くする。
6. 学校のトイレはどこも同じような色使いでつまらない、という意見が多かったという。そのせいか、洗面台は各トイレごとに異なった明るい色使いが。